

都立公園・庭園 春の花を見に行こう!

※庭園・植物園(★がついているものは、入園料が必要です。)

上野恩賜公園

現在、園内だけで約800本、動物園、寛永寺清水堂、東照宮など含めると全部で約1200本の桜が植えられています。さくら通りの小松宮彰仁親王像付近にコマツオトメという品種の原木があります。

☎ 03-3828-5644
🚃 都営地下鉄大江戸線「上野御徒町」下車徒歩5分
JR・東京メトロ「上野」下車徒歩2分、京成線「京成上野」下車徒歩1分

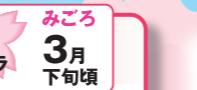


みごろ
3月
下旬頃

井の頭恩賜公園

井の頭池の周囲に約250本の桜があり、池の水に映える満開の桜が見事です。また、花が散った後も、花びらで池が一面桜色に染まる様子をご覧いただけます。ボートからの眺望をお勧めです。

☎ 0422-47-6900
🚃 JR・京王井の頭線「吉祥寺」下車徒歩5分、京王井の頭線「井の頭公園」下車徒歩1分



みごろ
3月
下旬頃

舍人公園

園内には、元からあった桜が300本、平成16年から19年にかけて「舍人公園桜の森づくり事業」により植えたものが700本あり、合わせて千本桜と呼ばれています。アメリカのポトマック河畔から日本に里帰りした「レーガン桜」は、特に有名です。

☎ 03-3857-2308
🚃 日暮里・舍人ライナー「舍人公園」下車徒歩1分、東武スカイツリーライン竹ノ塚駅から東武バス「入谷循環」で「中入谷」下車、東武スカイツリーライン西新井駅から足立コミュニティバス「舍人団地行」で「舍人公園東」「舍人公園駅」下車



みごろ
3月
下旬頃

春の花火と千本桜まつり

平成27年4月4日(土)・4月5日(日)
約三千発の花火と桜にちなんだイベントを開催します。※春の花火は4日(土)のみ

椿・さくらまつり

平成27年3月14日(土)～4月5日(日)
職員による園内ガイドツアーや毎年恒例となったコンサート、春の植物をポイントに園内を巡るクイズラリーなど、さまざまなイベントをお楽しみください。

旧芝離宮恩賜庭園★

当園のフジは樹齢100年以上で、例年4月下旬から5月初旬にかけて紫色の花を咲かせ、甘い香りを園内に漂わせます。長いものでは1mを超えるフジもあり、見事です。藤棚下にはベンチがあり、持参されたお弁当などを食べながらフジを堪能することができます。

☎ 03-3434-4029
🚃 都営大江戸線・都営浅草線「大門」(B2出口)下車徒歩3分
JR「浜松町」北口下車徒歩1分



みごろ
4月
下旬頃

桜の演奏会

平成27年3月28日(土)・4月2日(木)
桜の見ごろとなる時期に演奏会を開催します。



神代植物公園★

園内には、さくら園を中心に約770本の桜が植えられ、様々な種類が楽しめます。神代植物公園オリジナルの品種で花弁の先の紅色が濃い神代曙(ジンダイアケボノ)や、ばら園側の染井吉野(ソメイヨシノ)の大木並木も見事な花を咲かせます。

☎ 042-483-2300
🚃 京王線「つつじヶ丘」から京王バス深大寺行き「神代植物公園前」下車、京王線「調布」から小田急バス吉祥寺または三鷹行き、「神代植物公園前」下車、JR中央線「三鷹」「吉祥寺」から小田急バス調布駅北口または深大寺行き「神代植物公園前」下車

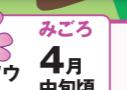


みごろ
3月
下旬頃

代々木公園

約800本の桜があり、早春からカワヅザクラの鮮やかなピンクの花が咲き始めます。1955年ごろ原木が発見され、静岡県河津町の名物となったカワヅザクラ。代々木公園にも河津町から寄贈された10本が中央広場にあり、花の少ない季節に蜜を求めて多くの小鳥が集まっています。

☎ 03-3469-6081
🚃 JR「原宿」・東京メトロ千代田線「代々木公園」下車 徒歩3分
東京メトロ千代田線・副都心線「明治神宮前(原宿)」下車 徒歩3分
小田急線「代々木八幡」下車 徒歩6分



みごろ
(カワヅザクラ)
3月
上旬頃

赤塚公園

赤塚公園の大門地区には、武蔵野台地の崖線に沿って奥行き最大20m、東西約200mの都内最大のニリンソウ自生地があり、地元ボランティアによって保護される可憐な白い花々が別世界を醸します。

☎ 03-3938-5715
🚃 都営地下鉄三田線「高島平」下車 徒歩8分



みごろ
4月
中旬頃

浮間公園

かつて荒川流域の河川敷には、サクラソウが多く自生していました。今では河川の改修等に伴って、公園付近では野生のものは姿を消しましたがその品種を残すため公園の一画、約1600m²の苗圃で栽培しています。さくら草保存会が、花の季節にはさくら草祭りを開催し、公開しています。

☎ 03-3969-9168
🚃 JR「浮間舟渡」下車 徒歩1分



みごろ
サクラソウ
4月
中旬頃

イキモノのイキな話 86



『砂漠の砂に大はしゃぎしたフェネックたち』

井の頭自然文化園 高松美香子

世界で一番小さいキツネのなまこ、フェネックは、あとも体重は1kg前後しかありません。体温調節に役立つ大きな耳や、砂の上も歩けるように毛であおわれた足の裏など、暑い砂漠での暮らしに適応した身体をしています。そんな砂漠でくらす野生動物としてのフェネック本来の姿を皆さんに見てもらいたいと思い、昨年の夏、放飼場の改修を行いました。外国の動物がくらす環境を全く同じように再現することはできませんが、手に入るものでなるべく自然に近づけた展示になるよう工夫しました。

新しく入れた砂漠風のベージュ色の砂は、ゴルフ場のバンカーや水処理のろ過に使うために輸入されている韓国産の珪砂です。植え込み内と運動場のまわりは、サハラ砂漠の約70パーセントを占めるという礫砂漠の雰囲気を出すため、岐阜産の茶色いチャート碎石を敷き詰めました。

改修後、フェネックたちを放飼場に戻したところ、砂漠出身の動物としての血が騒いだのか、ギヤーギヤー鳴きながら追いかけっこをしたり穴を掘ったり、ベタッと寝転んで全身で砂の感触を味わったり、映画の早回しのようにコミカルに動き回り、大はしゃぎとなりました。とにかく楽しそうなフェネックたちの動画を「東京ズーネット」に掲載し、ツイッターで紹介したところ、リツイートが3000を超える大反響となりました。

さすがに現在は落ち着いていますが、ほとんど寝て過ごす日中も、全身を伸ばして砂に浸って?いたり、顔を砂にうずめています。また、寒さの苦手なフェネックたちのために、子豚用の保温マットを敷き込んで、冬でも砂の上でくつろいでもらえるよう工夫をしています。



～動物園の“かお”～

多摩動物公園 コアラ「タイチ」

平成26年11月25日、名古屋市東山動物園からコアラのオス「タイチ」が多摩動物公園に来園しました。



H26.11.26撮影